## 1 目的

共振回路は同調回路,フィルター回路,発信回路等の構成要素として応用上重要である.ここでは,電気回路の復習も踏まえて,並列共振回路のインピーダンス周波数特性を測定し,電気回路におけるフェーザ,複素インピーダンス,電圧波形波の振幅と進み・遅れ等の概念を再確認する.また,電気回路演習での実験[1]を再確認し基本的な測定技能を高める.また,共振回路に対する理解も深める.

## 2 理論

並列共振回路の一般形を図 1 に示す.ここではコイル L とキャパシタ C は理想的であるとし,抵抗 R を並列に考える.各周波数 $\omega$  [rad/sec] での複素アドミタンス  $Y(\omega)$  [S] もしくは複素インピーダンス  $Z(\omega)$  [ $\Omega$ ] は,以下のように書ける.

$$\begin{split} Y(\omega) &= \frac{1}{R} + j\omega C + \frac{1}{j\omega L} \\ Z(\omega) &= \frac{1}{Y(\omega)} = \frac{L}{C} \cdot \frac{1}{\frac{L}{RC} + j\omega L + \frac{1}{j\omega C}} \end{split}$$

サセプタンス成分  $\omega C - \frac{1}{\omega L}$  がゼロとなる共振角周波数  $\omega_0$  [rad/sec], 共振周波数  $f_0$  [Hz]

$$\omega_0 C - \frac{1}{\omega_0 L} = 0 \longrightarrow \omega_0 = \frac{1}{\sqrt{LC}}, \quad f_0 = \frac{1}{2\pi\sqrt{LC}}$$

において、図1の並列共振回路のインピーダンスの大きさは最大をとり、共振の状態になる。

並列共振回路に対し回路全体を流れる電流  $I[\mathbf{A}]$  と抵抗 R に分流する電流  $I_R[\mathbf{A}]$  の電流相対比  $I_{ratio}$  を定義する.

$$I_{\mathrm{ratio}} \equiv \frac{|I_R|}{|I|}$$

 $I_{ratio}$  の周波数特性を同調曲線と呼ぶ.図 1 の並列並列共振回路においては  $I_{ratio}$  は

$$I_{\mathrm{ratio}} = \frac{1}{|Y(\omega)|R} = \frac{|Z(\omega)|}{R} = \frac{|Z(\omega)|}{\max |Z(\omega)|}$$

ともかける. 共振周波数  $f_0$  [Hz] において  $I_{ratio}$  は最大値 1 をとる.  $I_{ratio}=1/\sqrt{2}$  を満たす各周波数  $\omega_L$ ,  $\omega_H$  ( $\omega_L<\omega_0<\omega_H$ ), あるいは周波数  $f_L$ ,  $f_H$  ( $f_L< f_0< f_H$ ) に対し

$$S = \frac{\omega_0}{\omega_H - \omega_L} = \frac{f_0}{f_H - f_L}$$

を選択度と呼ぶ、共振周波数の時のコイルまたはキャパシタに分流する電流 I との電流比を考えると、共振回路の Q は

$$Q = \omega_0 C R = \frac{R}{\omega_0 L} = R \sqrt{\frac{C}{L}}$$

で与えられる. このとき,

Q = S

が成立する.